



公立芽室病院 第80号

だより

ホームページアドレス
http://memuro.com
又は芽室町ホームページのトップページから
アクセスできます。

赤ちゃんとお母さんが紡ぐふれあいの世界

親と子の心と身体のために



「めむろーど」のセミナーホールで10月16日(土)に病院主催で第4回母乳育児講演会を行いました。これはBFH(赤ちゃんに優しい病院)認定病院の啓蒙活動の一環として続

けて行なわれています。今回は聖マリアンナ医科大学前小児科教授である堀内勤先生をお招きして「赤ちゃんとお母さんが紡ぐふれ愛の世界～親と子の心と身体のために」という演題で御講演を行っていただきました。出席者120名の中、お子さん連れのお母さんが保育担当のボランティアの方にお子さんを預けたり、会場のごきこーなでお子さんと一緒に聞いていただいたりと、育児中のお母さん方にも参加していただくという体制のなかで約2時間、パワーポイントを使い、たくさんの写真と図表を用いてお話いただきました。その内容を一部御紹介します。

幼い頃のおままとふれ愛で、子供は安心して護り支えられた体験を心の基地・よりどころとして、3歳ころから自立の能力を発揮していきます。それまでには色々な困難があり、どのように対応し、経験するかにによって人格形成が左右されます。



胎内から3～6か月までに親子に起こることは、まず、出産・出生です。赤ちゃんは羊水の中で包み込まれ守られている環境から不安で予測不能な胎外生活へ、また母親は出産という戦いで疲労感、喪失感から茫然とした状態にある。そこでの究極のふれ愛である皮膚接触、カンガルーケア(母の胸の上で胸をあわせ肌と肌をふれあうこと)は、一瞬のうちに喜びと安心感に変わっていきます。赤ちゃんは母に触れて、おっぱいを吸って安心したいという欲求行動がおこり、母親はわが子を抱き、重みを感じ、匂いをかぎ、撫で、目で見、声を聞き、原初的没頭という心理状態にあり、赤ちゃんとの絆のプロセスの始まりとなります。

この時期の母乳栄養は、泣くたびに与えられる乳房が安心感、安定感をはぐくみ、母親は母性と育児性にめざめ、わが子に向き合えます。母親はだんだん変化して、普通のいいお母さんになっていきます。

3～6か月から12～18か月は分裂期。

この時期におこる困難とは、親の心に潜む、自分自身の子供の頃の負の心、「内なる子」の存在、素直に甘えられなかった凍りついた心、いつも惨めな気持ちに耐えてきた自分が潜んでいることがある。子育てとは、この「内なる子」を解放し、克服し、取り戻して、ふところの深い人間に成長するチャンスでもある。でも一人では子育てはできない。母親は助けを必要としています。一人のこどもが育ちあがるのに、一つの村ほどの手が必要です。



親と子はふれ愛の世界から関係性が始まる。授乳によって身体も心も健康に育つ。赤ちゃんが泣いた時、ミクロの交流をすることつまり、ただちにそばに行き、抱いたり、おっぱいを吸わせることは、赤ちゃんとも母親の精神状態にとって大切な行動である。ミクロの交流の消失は、赤ちゃんが泣かない、笑わない、表情がない、外の世界への反応をなくしてしまうのです。

18～36か月は統合的解決期。子供が泣いているときに叱ったり、攻めたりすること「どうしたの? だいじょうぶ?」と抱きしめられるという違いが子供の心を育て、暖かく受け止めてもらって嬉しかった経験から思いやりが生まれます。心は一見なんでもない毎日のふれ愛の中から生まれます。親と子の関係は、別々の個性や感受性や能力を持った者が、たまたま親子となった偶然の巡り会い

です。親の期待通りにならないのは、独立した一人の人格として育ったからなのです。

最後に、お話の途中で、こんな言葉を紹介していただきました。「してあげる“あげる”なんてできないけど、そばにいてやれる」

☆当院助産師より☆

参加していただいた皆さん、ご協力いただいた皆さんありがとうございました。

ふれ愛やあまえがいかに大切かわかった。母乳育児やコミュニケーションの大切さがわかった。参考になりましたなどなど多数の感想をいただきました。

今後も地域の皆さん、ご家族の皆さんとともに、赤ちゃんとお母さんを守るような「赤ちゃんにやさしい病院」として、頑張っていこうと思います。

内科外来診療待ち時間のお知らせ

内科の診療体制は現在、医師3人体制となり、一部、外部の医師の応援をいただきながら診療を続けておりますが昨年までの体制がほぼ半減しております。

しかし、昨年の外来患者数とほぼ同じであるため、どうしても診療時間が長くなり、午前の外来診療がそのまま午後の時間まで延長となり、診察待ち時間が今までより長くなっております。患者さんには大変ご迷惑をお掛けしておりますが、あらかじめご承知おきくださるようお願い致します。当院といたしましては、ただいま早期に内科体制復元に向け全力を尽くしておりますので、今しばらくの間ご容赦くださるようお願いいたします。

院長

すまいる10月 病院だより79号に届いた質問にお答えします

Q「ドライマウス」何が原因で、どうすれば予防できるか…

A 原因については箇条書きに、予防法や対策は後に書かれているのですが、原因、予防法とはっきり明記した構成にすればよかったですと気付きました。ご指摘ありがとうございました。

Q「母乳育児シンポジウム」の文章で「3年目のクリーニング」の意味…

A クリーニングではなくクリーニング(洗い出しの意味=再評価)の誤字でした。お詫びして訂正します。BFHの認定を受けても、3年毎の再評価(クリーニング)を受ける必要があります。当院では、2006年にユニセフより「赤ちゃんにやさしい病院:BFH」の認定を受けました。母乳率の報告や産科の取り組みを紹介して、赤ちゃんにやさしい病院であることの再評価を受けました。今回の報告は、パネルで病院1階ロビーに掲示されています。